雑誌掲載

グリーンパワー（森林文化協会）
2013 年 1 月号

第 25 回

自転車で回る茅葺きのある風景

保存と観光支える現代の「結い」

ルポ にほんの里 100選

茨城県 石岡市（八郷）

ジャーナリスト 藤原 勇彦

紅葉、黄葉、緑の木、11月24日、茨城県石岡市八郷のモザイク状に色づいた晩秋の田舎道を、約30台の自転車が走った。ロードレーサー、クロスバイク、マウンテンバイクに交じって、幾輪か乗ったママチャリも安々同じペースで付いてきている。「やさと茅葺きサイクリング」。八郷に多く残る美しい茅葺き屋根の民家を、次々に自転車で訪ねながら、農村風景を楽しもうという催しだ。

地域に点在する茅葺き民家を訪ねるには、どこでもすぐにたどれて、なおかつ相当な距離を移動できる自転車が最適。「やさと茅葺き屋根保存会」メンバーで、サイクリングのインストラクターを務めた、新田修高さんのアイデアだ。今回が初めての開催で、千葉から来たという建築に興味を持つご夫婦や、自転車好きのグループ、雑誌で催しを知った単独参加の人など、多彩な顔ぶれがそろった。およそ50キロのコースを、ゆっくり1日がかりで回る。

八郷の茅葺き屋根民家は、150年ほど前の江戸時代に造られたものが多い。気候温暖で土地が広く、梅作はもちろん、カキなど果樹栽培で豊かだった農農の家は、広い敷地に、母屋のほか長屋門や書院、土蔵などが並ぶ。

職人が技を競う

屋根は「つくば流茅葺」と呼ばれる職人たちが、技を競って意匠を凝らした。古い茅と新しい茅を交互に葺いて軒下に編模様をつくる「トリオシモノ」、シュロの飾りを棟にあしらった「大名ぐし」、棟の端に竹の小口などで文様を描く「キリトメ」など、つくば流ならではの技法が、各所にあしらってあり、全国的にも美しい茅葺きとして認められている。現在、八郷には、このような茅葺き民家が70棟近く残っている。

この日、「やさと茅葺きサイクリング」の一行が訪ねた茅葺き民家は、石岡市の歴史体験公園「常陸風土記の丘」に移築保存されている民家群のほかは、すべて今も住民として使われており、普段は勝手に訪れることはできない。「木崎農家」は厚みのある親やかな屋根の曲線が美しい。モチノキの生垣「いきどね」に囲まれた「三輪家」、街道沿いの旅籠だった珍しい2階建ての「綱引家」、幕末の志士で歌人「佐久良東雄田宅」、「観光農園（大場家）」など、特色を持った家々だった。

それぞれの家で、当主や家族が屋根の特徴や、手入れの苦労を語ってくれた。昔の茅葺き職人の名人が造った「キリトメ」の模様の美しさ、軒の高さ、屋根の厚み、曲線の工夫、一方、生活様式の変化で、囲炉裏などの火を焚く機会が減り、屋根を傷めいぶせなくなったため、本来25年は持つはずの屋根が15年くらいで葺き替えなくてはならなくなったこと、茅の確保の難しさ、職人が減っていること、葺き替えの費用、さらに、当主の高齢化などの悩みものそく、それでも、先祖から伝えられてきた茅葺き民家を、できる限り伝えていきたいという誇りと愛着が、言葉の端々からしのばれた。

茅葺き屋根は、かつては地域の農業や自然の循環のひとコマだった。地域には「屋根を替えることもかなわない」との言い伝えがある。傷んだ古茅を堆肥にして出に入れられるからだ。

手入れ方法の継承が課題

茅は屋根を葺く材料の総称で、八郷ではススキを主とし、集落内の細河地などにある共同の茅場で毎年刈り取っては、2、3軒ずつ葺き替えをしていた。毎年刈った方が、土地が痩せて、細くてしなやかなススキがとれ、扱いやすくなるという。茅葺き屋根は日頃の手入れが肝心。葺き替えた後も、3年後くらいから、部分的に補修にかからなければならない。

近年は茅葺き民家が減り、地元の共同作業「結い」が成り立たないため、手入れのための茅の準備から職人を抱む家も出てきた。農業で生きてきた世代のいる家では、手入れの方法を知っている家人が手伝うため、維持費用は年間20万円程度で済む。

しかし、若い世代は兼業農家で勤めの人も多く、手入れの方法の継承が課題の一つになっている。また、共同の茅場がなくなり、個人で茅場を持ったり、空き地などに生えたススキを許可を得て刈っている家もある。

「やさと茅葺き屋根保存会」は、茅葺き民家の持ち主、茅葺き職人、茅葺き民家に関心を持つ人々が、2004年に結成した任意団体。茅葺き屋根を保ってきた農村の文化を次世代につなぐことを目的に、毎年秋にボランティアを公募して茅刈りを行うほか、民家の見学会、住民との交流会、若手職人の育成への協力などをしている。

素粒子研究機関で茅刈り

ボランティアの「茅場」がユニークで、なんと最新の素粒子物理学の研究機関だ。八郷からほど近いつくば市にある大学共同利用機関法人・高エネルギー加速器研究機構の広い構内にススキが生え、毎年刈っては処分していたことを知った保存会の関係者が、茅葺き屋根に使わせてはしいと申し入れた。機構の協力で、10年近く前から茅刈りが実現し、毎年刈った茅は、民家の持ち主に分配している。集落の枠を超えた、これも現代的な「結い」かもしれない。

茅葺き民家の保存について新田さんは、「住家の多い持ち主にとっては、先祖から引き継いだ家への愛着であり、地元にとっては、美しい農村地域・八郷のシンボル、観光資源としての所得も大きい」という。

「大場家」で手づくりの甘酒を振る舞われたサイクリングの一行が屋敷に続くこの、茅葺き民家の後方に、赤光の筑波山がそびえていた。春ごろには、2回目の茅葺き探訪サイクリングが、今回とはコースを変えて予定されている。

にほんの里 URL http://www.sato100.com

「大場家」の棟の端の模様「キリトメ」

「大場家」の棟飾り「大名ぐし」

グリーン・パワー 2013.1 32

小さな農家屋敷の前を通るサイクリングの一行

「木崎農家」の母屋（右）と離屋

33 グリーン・パワー 2013.1

筑波山麓・里の風景をのんびり訪ねるワンデーライド
「やさと茅葺きサイクリング」

首都圏からも近い茅葺きの里、茨城県石岡市やさと地区で、去る11月、茅葺き古民家をめぐるツアーが催された。「自転車人No.29」号の巻頭ルポでも紹介した同エリアは、ライター新田のマイタウン。最高の散歩ライドコースを案内します。

文・写真＝新田穂高

関東の茅葺き王国といわれる茨城県。なかでも筑波山の東麓、石岡市やさと地区には、母屋や長屋門など茅葺きの建物が70棟ほど残る。点在する民家をめぐるのに、自転車ほどぴったりの足はない。

地域に残る茅葺き屋根の材料となるススキを協力して集めるため、やさと茅葺き屋根保存会ができたのは9年前。以来毎年12月には峠を越えた向こう側、つくば市にある高エネルギー加速器研究機構の敷地でススキを刈っている。その保存会の事務局を担当することになった私は、以前から考えていた、やさとに点在する茅葺き民家を自転車でめぐるサイクリングを呼びかけてみた。

雨で予定を順延して11月24日。スタートはJR常磐線高浜駅。鉄道の駅のないやさとだが、自転車なら駅近くから恋瀬川サイクリング道で車道を通らずに行ける。まずは、やさと地区に入る手前、常陸風土記の丘へ。ここには縄文時代の竪穴式住居から江戸時代の民家まで、20数棟の昔の建物が復元されている。これらほとんどの茅葺き屋根をメンテナンスするため、若手の職員2人が80歳の名人に弟子入りし、茅葺き職人修行中。葺き替えたばかりの屋根の片付けをしていたひとりに声をかけ、仕事の様子を話してもらった。

鬼越峠のちょっとした坂を越えると、やさとに入る。総勢20人、筑波山を正面に見る一本道を一直線に走る。やさとを南北に抜ける山麓道路のフルーツラインはサイクリストに人気のコース。道沿いにあるフラワーパークの駐車場入り口に、最新式のトイレができたので寄る。トイレは、つくばに抜ける朝日トンネルの開通に合わせて整備された。が、フルーツラインの交通量は以前と比べて5～10倍増なので、今回はちょこっとかすめて、あとは集落をつなぐ里道を選ぶ。

前号で中山絵莉香さんと訪ねた上青柳地区の木綿家は母屋と書院、2棟の茅葺き屋根を持ち、門や庭も見事に手入れされた。やさとを代表する民家。当主の木綿翼さんが茅葺き屋根保存会の会長として歓迎のごあいさつ。その後、もと絲織だった上曽地区の綿引家など茅葺き民家をつなぎつつ、お昼には冬のやさと名物、しゃも鍋をいただく。午後は幕末の勤王の志士で歌人の佐久良東雄の生家から佐久の大堤家へとまわる。茅葺き屋根を見学していると、秋の日は早くも傾きはじめた。

最後は、広々とした丘を越えていく道をスピードアップ、予定していた愛宕山へのヒルクライムは次回にまわして、JR常磐線岩間駅にゴール。朝9時すぎから午後4時まで丸一日かけて走った距離は50km。立ち寄る場所ごとゆっくりと見て聞いて話して、やさとの里の風情に似つかわしい、のどかなサイクリングだった。

1｜大場家にて。ロード、折りたたみ、クロスバイク、ママチャリと多彩な一行で走った　2｜常陸風土記の丘では職人修行中の若者が説明。屋根の南面と棟は4人×1週間で葺いた　3｜上曽の銚子街道沿いに立つ2階建ての綿引家は、かつて旅籠を営んでいた　4｜木綿翼家には、右手の主屋と左手の書院、ふたつの茅葺き民家がある　5｜茅葺き民家の敷地内にたたずむのは、かわいらしい茅葺きの虚空蔵堂　6｜ふるさと農道を筑波山に向かって走る　7｜葺き替えたばかりの屋根は明るく輝いて見える　8｜石岡市は9月に行なわれる祭りの獅子舞で有名。常陸風土記の丘には日本一大きい獅子頭がある

※コースは、ブログ：やさと茅葺き屋根保存会だより「コース試走しました」を参照ください。http://yasatokayabuki.cocolog-nifty.com/blog/
※茅葺き民家の敷地内での見学には、家主の許可が必要です。保存会では年に数回の見学会を行なっています。

自転車人（山と渓谷社）
2013 年 冬号

かやぶき屋根の
古民家が残るやさしい風景の里
やさとスローサイクリング

自転車人（山と渓谷社）
2012 年 秋号